

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-52

学校名・団体名	新城市立八名小学校
HPアドレス	http://www.city.shinshiro.ed.jp/yana-el/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	学校を中心とした地域との元気な協働体づくり
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>学校を中心として、学校と保護者、地域、児童が協働して教育的活動に携わっていくことで、学校だけでなく、学区の地域全体で共に過ごし、共に学び、共に育つ「元気な学校づくり」を進める。そして、児童もふるさとの人、自然、歴史文化にふれることで、ふるさとをさらに身近に感じ、大切にする子へと育てたい。</p>	

<活動・研究報告>

1 地域とつくる元気な子どもが育つ学校

本校の学区である八名地区には、自然を生かした産業に携わる人々や自然・歴史文化を残し伝えようと活動している人々が多くいる。しかし、子どもたちやその家族は、そのような人々を知らなかったり、知っていても接する機会がなかったりして、身近に感じていることが少ない。そのため、地域の特色ある自然や歴史文化にかかわる人を地域講師として活用し、その人を通して地域を身近に感じられるとよい。

2 親子で元気に過ごす休日学校開放…毎学期の土・日曜日を中心にして

昨年度より休日学校開放を地域講師が中心として行っている。今年度も、「親子ふれあい教室」「子ども防災フェスティバル」を開催した。また、地域の講師が中心となって「寄せ植え」「絵画」等の体験や教室を継続した。さらに「ふるさとウォーク（地域探訪）」「いちご狩り（地域農業探訪）」「バドミントン」等の新しい活動を行い、その場を地域へも広げていった。

(1) 地域講師が中心となって

「寄せ植え教室」は、年2回開催している。地域で花の苗をつくっている方が学校で寄せ植えを教えてくれている。プランターを家族で持ち寄り、色とりどりの花を植えている。「花のよさを知って多くの人が花に接してほしい」という願いを講師の方にはもっており、この地域が花で囲まれ、すてきな所になってほしいという思いを寄せ植え教室の度に話される。学校の花壇の苗も寄付していただくことが多い。

「絵画教室」は、地域の画家の方がきて、児童や保護者を対象に水彩画の描き方を教えていただいている。その他に「手芸教室」「バドミントン」等の教室を定期的で開催している。

(2) 地域団体との連携

P T Aが主催となって「親子ふれあい教室」を開いている。親子でふれあうことを中心に、P T Aが活動を考え毎年7月に行っている。そこで「ふれあい動物園」「食育ボランティア」等と連携して、親子で楽しむ講座を開いた。また、子ども会が中心となって「子ども防災フェスティバル」を開催した。今年は自衛隊や消防にも協力してもらい、災害派遣車の展示や応急手当等を学ぶ機会とした。

(3) 活動場所を学校から地域へ…地域への思いを深める

保護者は地域外で働く方が多く、住んでいても地域のことを知らないことが多い。そのため、地域で学び地域を知る機会として、地域の探訪する「ふるさとウォーク」や「いちご狩り」を企画した。「ふるさとウォーク」では、地域の歴史や自然を学ぶ機会として、地域の歴史研究会やまちづくり協議会、体育振興会などと連携し、年3回行った。そして、地域の特産物を知る機会として、いちご農家をお願いをして収穫終了時期に合わせて「いちご狩り」を2回企画した。親子での参加が多く、毎日の通勤や通学で見るビニルハウスで栽培されていることを知り驚いていた。あらためて、地域のことを知る機会となるとともに、それにかかわっている人についても結びつきを深めることができた。

3 学校の教育課程と結ぶカリキュラムマネジメント…休日学校開放を授業とつなげ、開かれた学校へ

休日開放に参加した児童の思いやそこでの地域講師とのつながりが、学校の授業に生かされるようになってきた。

(1) 地域の伝統野菜「八名丸栽培」

2年生は、畑で地域の伝統野菜（里芋）である「八名丸」の栽培に挑戦しようと考えた。そこで、「親子ふれあい教室」でお世話になった「食育ボランティア」の方との間で、年間を通して八名丸の栽培を指導してもらえることとなった。児童は、世話や肥料等の仕方を教わり育てることができた。また、収穫した「八名丸」を使った料理（八名丸ピザ）を最後にはいっしょに作って楽しむことができた。

(2) 地域の歴史・自然を学ぶ

ふるさとウォークに参加することで、地域の歴史や自然を知り、それを「総合的学習の時間」にまとめることでさらに深めるようにした。6年生は、ふるさとウォークへ参加したことが地域の歴史を学ぶきっかけとなった。そして、歴史研究会が行う講演会等に参加し、地名や戦争についての知識や当時の人の思いを深めた。また、4年生は「まちづくり協議会」を通じて、1学期に地域がつくるビオトープの見学を通して、身近の自然について学んだ。さらに2学期は、地域の生き物を教えてもらう機会をつくっていた。

(3) 「絵をかく会」の絵画指導

毎年秋に「絵をかく会」を全校で行っている。今年は「絵画教室」の講師をお願いをして、各学年の発達段階に合わせて、ポイントを指導してもらった。指導のポイントがはっきりしていたため、その後の指導や審査に役立てることができた。

(4) 地域の農業に学ぶ

5年生では、社会科の農業の学習から発展させ、田を借りて米作りを行う。籾まき・田植え（5月）、稲の観察（6～9月）、稲刈り・脱穀を行う中で、地域講師から昔の米作りの方法や米作りや地域に込めた願いを聞き、ふるさとのことを考える機会となった。また、休日開放で訪れた農家以外のいちごハウスも調べ、見学を行った。さらに、5年生の家庭科では、「新城茶」の農家にお茶の入れ方を学び、学校公開日には参観者にふるまった。

4 子どもが元気に過ごす学校づくり

(1) 共育支援員とともに図書館で過ごす子どもたち

学校に来て、職員の手の回らないところを中心に補助していただいている方を「共育支援員」と呼んでいる。火・木曜日を中心にして、授業後にバスの時間まで残っている児童を見守っている。児童を見守りながら、図書館の整備を行い、掲示を工夫したり図書コーナーをつくったりして、子どもが利用したい図書館にしていってくれた。

(2) 工作コーナーでなかよく遊ぶ

雨の日も室内で過ごすことのできる工作コーナーを設けることができ、積み木（カプラ）等を使って楽しく遊ぶ姿が見られた。また、積み木（カプラ）以外にも、竹トンボ、お手玉、けん玉等の遊び道具も用意し、自由に遊ぶことができるようにした。

(3) 放課後児童クラブとの連携

本校の図工室を利用して、放課後に児童クラブが開設されている。工作コーナーの教室を隣に設けることで、児童クラブも利用できるようにした。そして、学校の遊び道具も共同で使うようにして、児童が楽しく過ごせるようになった。

(4) 八名っ子アニマルパーク

飼育小屋を修理することができ、毎週木曜日に地域の移動動物園からいろいろな動物が来て、ふれ合えるようになった。特に飼育小屋の入口が大きくなり、さらに頑丈になったため、大型の動物まで持って来れるようになった。移動動物園と連携し、飼育技師が始業とともに連れて来て、夕方に持ち帰っている。来た動物については、飼育技師の方が動物について説明したものを掲示して、その動物について詳しく知ることができるようになってきている。今年度は、羊やヤギの他に、カメ、カピパラ、フラミンゴ、アルパカ等のいろいろな動物を連れてくることができ、子どもたちは放課の楽しみにしている。また、こども園や地域の福祉施設からも来訪することが多く、だんだんと地域の楽しみにもなってきた。

5 食育を通して、元気で健康な子どもに

(1) 地域の生産者の顔が見える給食

1学期には、地域の有機栽培で農業を行っている方から野菜を提供してもらい、その野菜づくりの給食献立を考えて実施した。また、生産者の野菜や農業に対しての思いも紹介した。生産者の思いに子どもたちはふれ、いつもとは違い、野菜のおいしさをしっかりと味わおうとしていた。また、2学期には5年生が作ったお米や地域の生産者から分けてもらったお米を給食に使い、紹介をした。このように、給食を通して、調理員さんだけでなく生産者の思いも感じる事ができた。

(2) 八名まるごとメニュー

夏休み明けに、児童とその家庭に地元の産物を使った給食新メニューを募集した。考えられた料理の中から、PTA役員が中心となって給食によいものを選び、栄養教諭と調理員が給食用に工夫し、給食メニューとして子どもたちに提供することができた。また、PTAに対しても試食会を開き、地域の味を味わってもらった。

6 もらった元気を地域の方へ

(1) 地域へ元気を広げる

6月に地域講師の授業を中心にした学校公開を行った。また、放課の時間を30分とり、来校した保護者や地域の方を児童が案内して、「八名っ子アニマルパーク」を見たり、「新城茶」を味わったりした。整備された「わんぱく山」にも出かけ、案内しながら自分たちの普段の生活の様子を話したり見せたりした。また、運動会には、福祉施設や地域の人に招待状を送り、元気な姿をみせることができた。そして、地域講師と学んだことを、子どもたちがまとめたり自分たちの言葉に直したりして、学習発表会で発信するとともに、地域や保護者のおかげで成長できた姿を見せることができた。

(2) 地域の方に感謝

お世話になった地域講師の方へは、その都度児童は手紙や絵等で感謝の気持ちを伝えた。また、1年を通してお世話になっている通学や登下校での見守り等でお世話になっている方々を招待して全校で感謝する会を開き、地域とともに生活し、地域に支えられていることを実感することができた。

7 成果と課題

学校が中心となって、地域と児童、保護者をつなぎ、地域や保護者が協働して子どもたちの活動を計画、支援していくことが、子どもたち一人一人を地域全体で支えていこうという気落ちが芽生えている。また、地域が協働体としての役割を強めることにもつながった。学校が中心となって継続、推進していったことが、来年度は地域自治区の予算化につながり、「給食でのいちごの提供」「図書館の整備費」「花苗の購入費」等を地域が応援してくれることになった。今後、学校を中心となっていたこれらの役割が、地域や保護者へと受け渡され、教育力の強い地域へと変化していくとよい。そして、地域へ広がる中で地域の施設を活用した活動へと発展していく芽が育っている。また、子どもたちも地域とのかかわりに関心を持ち、自ら進んで地域にかかわる経験を深めていっている。これらが地域をあらためて見つめ直し、身近に感じることで、ふるさとを大切にす思いを深める機会となっている。児童たちの成長を願い、地域が育てることで地域のよさを見直し、よさを生かすことが「将来可能性都市」としての「八名」につながると考える。